

第 19 回 イランの歴史

1 イランの王朝

- ・現在のイラン地域には、古くからインド=ヨーロッパ語系の民族が居住していた。
→前 7 世紀ころには、初めてオリエント世界を統一した（ ）の
支配を受けていたが、イラン人が独立してメディアを建国した。
→その後、同じイラン人の（ ）が登場し、オリエントを
再統一して大帝國を築きあげた。

☆（ ）（前 8 世紀末～前 550 年）

- ・インド=ヨーロッパ語系のイラン人がエクバタナを都に建国した。



キュロス2世
メディアの支配から
独立した。キュロス
大王とも呼ばれ、
『旧約聖書』ではメ
シアのひとりと考え
られている。

☆（ ）（前 550～前 330 年）

都…（ ） ※現在のイラン西南部。

◆（ ）（在位 前 550～前 529 年）

- ・アケメネス朝を建国し、リディア、新バビロニア、メディアを滅ぼした。

◆（ ）（在位 前 521～前 486 年）

- ・この時代にアケメネス朝ペルシアは最盛期をむかえた。

◆ダレイオス 3 世（在位 前 336～前 330 年）

- ・（ ）の東方遠征に敗れて滅亡した。

2 パルティアとササン朝ペルシア

- ・アレクサンドロス大王の死後、（ ）がイランを支配した。
→しかしイラン系の（ ）が独立した。
→その後 3 世紀に入ると、（ ）がイランを支配した。

☆パルティア（アルサケス朝）（前 248 年ころ～後 226 年）

都…（ ） ※ティグリス川中流

◆（ ）（在位 前 247 年ころ～前 211 年ころ）

- ・イラン系の遊牧民が、現在のイランを中心にして独立した。
- ・漢代の中国では、（ ）と呼ばれた。
- ・後にローマと争い、前 53 年にはクラッスを敗死させた。
- ・226 年、同じくイラン系のササン朝ペルシアによって滅ぼされた。



アルサケス
安息というのは、アルサ
ケスに漢字をあてたもの
である、と第 10 回のプリ
ントでも書いてます。





アルダシール1世
ゾロアスター教の
神官であったという
説もある。ササンと
はアルダシールの
祖父の名前。

- ☆ () (226～651 年)
 都… () ※ティグリス川中流
 ◆ () (在位 226～241 年)

・イラン系農耕民が、パルティアを滅ぼしイランのファールス地方に建国した。

- ◆ () (在位 241～272 年)
 ・3世紀、東のクシャーナ朝、西のローマ帝国を攻撃し諸王の王を自称した。
 →260 年、軍人皇帝時代のローマ皇帝 () を捕虜にした。



ホスロー1世
ビザンツ帝国に
対しても、優勢に
戦いをすすめた。
文化面でも黄金
時代をむかえた。

- ◆ () (在位 531～579 年)
 ・6世紀、中央アジアのトルコ系遊牧民 () と同盟し、同じく中央
 アジアの遊牧民である () を滅ぼし、最盛期をもたらした。
 ・ビザンツ帝国の () とともに激しく争った。
 ◆ホスロー2世 (在位 591～628 年)
 ・7世紀、ビザンツ帝国と戦ったがヘラクレイオス1世に敗れた。
 ・642 年、新興のイスラーム勢力に () で敗れた。
 →651 年、ササン朝ペルシアは滅亡した。

＜ササン朝ペルシアの文化＞

- ・建国者のアルダシール1世の時代から () を国教とした。
 →経典の () はササン朝の時代に成立した。
- ・3世紀、マニが諸宗教を融合させた () を創始した。
 →シャープール1世の時代に保護されたが、その後は弾圧された。
 →北アフリカ、フランス、中央アジア、中国などに伝わっていった。



シャープール1世の銀貨

表は王の肖像画だが、裏には火を焚く祭壇が描かれている。ゾロアスター教が、火を聖なるものとしていたことがよくわかる。別名は拝火教。



マニ

マニは、ユダヤ教、ゾロアスター教、キリスト教、仏教を混ぜたような新宗教を創始した。シャープール1世の保護を受けたが、最後は処刑されている。



獅子狩文錦



漆胡瓶

ササン朝美術では、織物、銀器、ガラス器が特にすぐれていた。法隆寺の獅子狩文錦、正倉院の漆胡瓶は、その代表的な宝物である。

- ・ササン朝ペルシアでは、美術・工芸の分野が大いに発展した (ササン朝美術)。
 →中国や日本にも伝わり、現在でも () や () には、
 ササン朝の影響を受けた美術品が数多く収蔵されている。

